

○中学校（通級指導教室）

【学校の概要】

0 中学校は、3つの小学校と連携グループを組み連携し、うち1校とは分離型一貫校として対応している中学校である。平成 27 年度は各学年 3 学級である。

学校の特色として、「ICT を活用した授業の充実」を掲げており、地域の ICT 推進校として重点的に機器の整備が行われている。また、情緒障害通級指導教室が設置されており、4名の教員と4名の講師が配置されている。

【特徴的な点に関するまとめ】

本事例では通級指導教室の事例を取り上げる。

通常の学級では一人1台の Windows のタブレット型コンピュータが導入されており、教員もほぼ一人1台を持つ状況であるが、通級指導教室、特別支援学級には、二人に1台 iPad が整備されたため、通級指導教室では iPad を使用している。LAN は校内に整備されているが、通級指導教室は接続できない設定になっている。必要に応じて Windows のタブレット型コンピュータで接続する状況である。

指導に関しては、基本的に個別指導が中心となるため、生徒の特徴に応じて iPad の使い方が工夫されていた。中学校年代ということもあり、自己評価が低かったり自信がなかったりする生徒が多く、学習へのモチベーションや意欲を高めるために活用する場合も多いとのことであった。

【特徴的な事例】

通級指導教室では、日常的に iPad を使用しており、生徒の特徴や状況に応じて使い方を工夫している。主な活用例を以下に示す。

(1)「話す」ことに困難のある場合

【発語を促す】

アプリケーションを授業の導入部分で使わせ、授業に対する意欲やモチベーションを高める。漢字ドリルなどを使うことが多い。動画の説明を口頭で行わせたり、電子教科書の読み上げ機能を使ったりする実践も行った。

(2)「書く」ことに困難がある場合

【作文の文章構成】

- ①メモ機能を使い、書きたいことに関連する単語を入力し、後でその単語を見ながら作文を構成し書くことができた。長くメモすることは苦手でも、単語の入力は抵抗なくできた。文章にまとめる際には、本人のペースで書く作業を進めた。
- ②話すことはできるが書くことに困難のある生徒が、音声で書きたいことを録音し、それを聞きながら書き写した。自分のペースで速度を調整しながら書いていた。生徒自身も「iPad を使うと書ける」と話していた。

(3) 社会性の課題がある場合

【自分の姿を振り返る（モニタリング）】

グループワークの時の振る舞いなどで、相手の気持ちを考えて行動した方がよい場合に、対象生徒の行動を動画で撮影し、教師とともにどのように振る舞えばよいかについて話し合う。最初は恥ずかしさなどから嫌がる生徒も多いが、「通級指導教室はこういうことを勉強する場所です」ということを伝えると納得する。自分の振るまいが確認できるので、修正についても具体的な話し合いができる。その他、面接の練習にも応用した。

(梅田真理、金森克浩)

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究—学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理—」（平成 28 年 3 月）、104-105 に記載された内容である。